

ごとう通信

第 207 号

平成 30 年 3 月 1 日

これは公言してはばからないことなのですが、二月は嫌いです。十二月の中で一番嫌いということではなく、二月だけ嫌いです。寒いのはもちろん、どんよりしたイメージしかありません。どれくらい嫌いかというと、十月位になって肌寒さを感じるようになる。「早く二月が終わらないかなあ」と思うほどです。

そして三月。例え寒い日があるうとも、例え雪が降ろうとも「春だ！」

と思うだけで我慢できてしまいます。

そんな三月ですが、一年だけ記憶にないくらい忙しか



った年があります。それは大学六年の三月（平成三年）。今は違うのですが、当時は国家試験が四月の最初にありました。三月は卒業試験があり、その可否の発表、卒業式、そして国家試験に向けて最後の追い込み…と三月を味わう余裕はまったくありませんでした。今となっては本当にいい思い出です

けど。国家試験が終わった日、大学の友人たちと靖国神社で花見に行きました。その桜の美しさは人生で最高のものでした。最近では開花が早まったりしていますが、今年もそんなシーズンですね。

撰生

かなり前の話、二十年以上前です

が、ある新聞記事を読んでびっくりしたことがあります。北欧のある国でいわゆる健康のためにいいことを積極的に取り入れ、悪いことはしないようにした群とそうでない群を比較した調査をしたそうです。つまり、撰生した人と不撰生した人でどちらが長生きするかという国をあげての大規模調査です。その結果…不撰生群の方が長生きをしてしまい、その結果は公表されなかったという内容でした（うろ覚えです）。

この結果から考えるべきことは、撰生に意味がないということではなく、人間の健康って単純なことではないということです。健康診断や検診などで「カルシウムが足りません。カルシウムをとりましょう」などと言われるけど、それだけで健康になるわけではないということです。